

製品名: COL13A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09167**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	COL13A1
別名	COL13A1; Collagen alpha-1(XIII) chain; COLXIII A1
遺伝子 ID	1305.0
SwissProt ID	Q5TAT6
免疫原	抗血清はヒトコラーゲン XIII α 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 641-690

背景

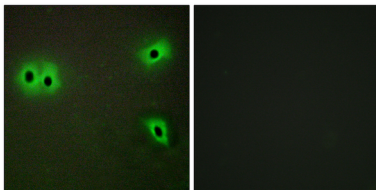
この遺伝子は、非線維性コラーゲンの 1 つの α 鎖をコードしています。この遺伝子産物の機能は不明ですが、すべての結合組織産生

細胞で低レベルで検出されているため、結合組織で一般的な機能を果たしている可能性があります。細胞外マトリックスに分泌されるほとんどのコラーゲンとは異なり、コラーゲン XIII は膜貫通ドメインを含み、タンパク質は細胞膜に局在しています。この遺伝子の転写産物は、少なくとも 8 つのエクソンが関与する複雑で広範なスプライシングを受けます。他のコラーゲンと同様に、コラーゲン XIII は三量体です。この三量体が 1 つの α 鎖異性体で構成されているのか、それとも複数の α 鎖異性体で構成されているのかは不明です。選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが数多く報告されていますが、その一部の全長は決定されていません。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、代替製品:追加のアイソフォームが存在すると思われる、機能:正常な発生に必要な細胞-マトリックスおよび細胞-細胞接着相互作用に関与する。筋線維と基底膜の結合に関与している可能性がある。骨の軟骨性骨化および肺の分岐形態形成に役割を果たす可能性がある。ヘパリンに結合します。サブユニット:ホモトリマー;ジスルフィド結合。XIII 型コラーゲン三重らせんの核形成は N 末端領域で起こり、三重らせん形成は N 末端から C 末端に向かって進行すると考えられる。FN1、パールカン/HSPG2、および NID2 と相互作用する。組織特異性:胎児および成人の眼組織の両方で広く発現している (タンパク質レベル)。眼では、毛様体筋、視神経、および神経網膜で発現が顕著である。初期胎盤においては、胎盤絨毛の線維芽細胞様間質細胞、発達中の毛細血管の内皮細胞、および細胞栄養芽細胞柱の細胞に局在する。また、脱落膜の大型脱落膜細胞および妊娠子宮内膜の間質細胞にも検出されるが、子宮内膜腺の上皮細胞には検出されない。

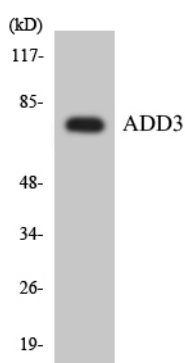
研究分野

細胞生物学

画像データ



コラーゲン XIII α 1 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



ADD3 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウエスタン プロット分析。